

揺れやすさマップ

丹生川地域

高山市周辺の地震
 政府(地震調査研究本部)、岐阜県では、全国、岐阜県下において今後発生する地震の規模が大きいとされる断層帯について、震源断層の位置や形状を調査し、その結果を公表しています。
 このうち、高山市において特に大きな被害が予想される断層帯は次の4つです。

- 阿寺断層帯 M7.8程度
- 跡津川断層帯 M7.9程度
- 国府断層帯 M7.2程度
- 高山断層帯 M7.6程度

このマップは、これらの地震の最大値震動を重ね合わせたものです。(Mはマグニチュード)

揺れやすさマップ

高山市全域



揺れやすさマップ 凡例

- 震度4以下
- 震度5弱
- 震度5強
- 震度6弱
- 震度6強
- 震度7

「揺れやすさマップ」の見方
 「揺れやすさマップ」とは、高山地域およびその周辺を震源とする地震が発生した場合の地面の揺れの強さを50mメッシュで想定し、「震度階」として色で表現したものです。
 揺れの強さは表層地盤によって大きく異なり、軟らかい場所は、硬い場所にくらべ、揺れはより大きくなります。

震度5強

かなりの恐怖感があり、吊り下げ物は大きく揺れ、棚などの食器類は首をたて、すわりの悪い置物が倒れる。電線が大きく揺れる。

震度6弱

多くの人が身の安全を思うようにする。書棚の本が落ちたり、家具が移動し、窓ガラスが割れ落ちることがある。耐震性の低い建物の壁や柱に破損や亀裂が走るものがある。

震度6強

立っていることが困難になる。重い家具等が移動、転倒する。かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い木造建物では、倒壊するものもある。

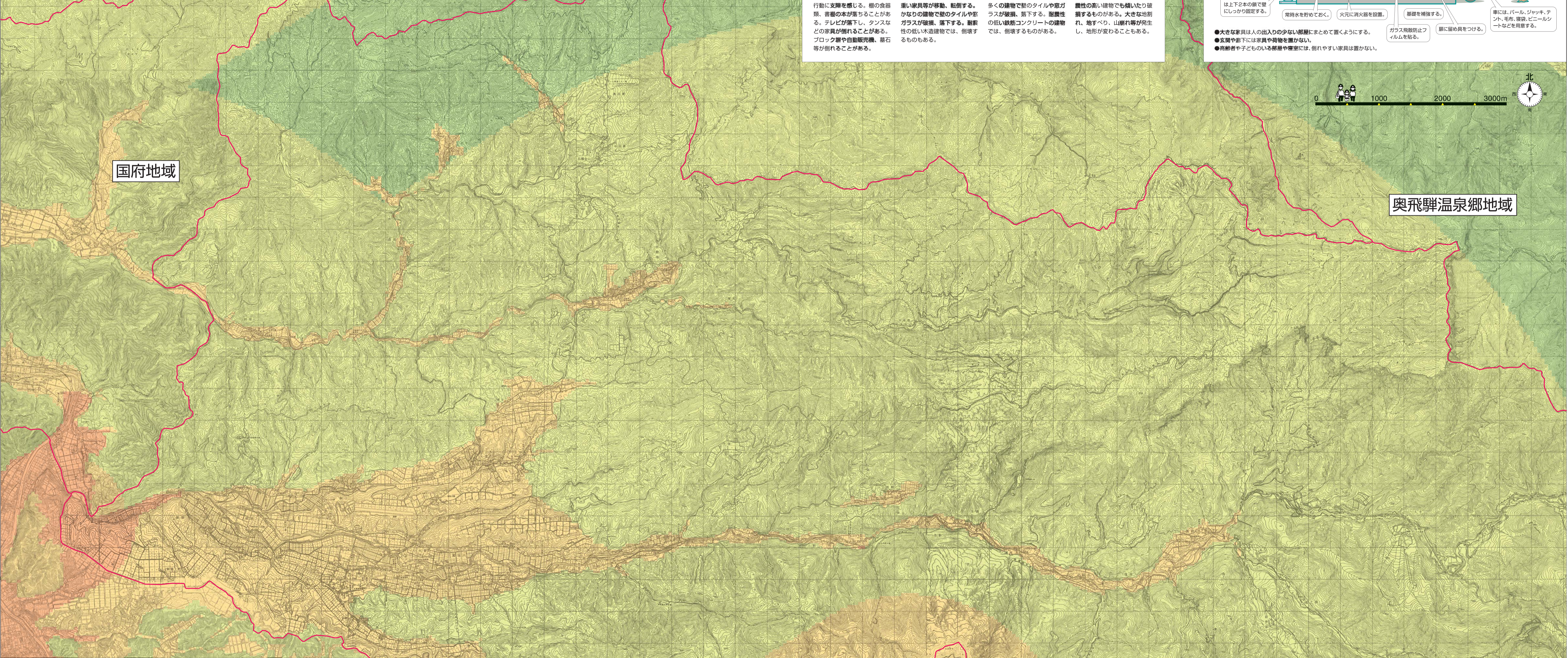
震度7

自分の意志で行動できない。耐震性の高い建物でも傾いたり破損するものがある。大きな地割れ、地すべり、山崩れ等が発生し、地形が変わることもある。

家の内外の地震対策を進めましょう

地震対策は皆さん一人ひとりあるいは家族が協力して普段から備えておく必要があります。建物やそのまわりにあるもの、家の中の家具やガラスなど、地震に対する安全性についてチェックし、補強や配置換えなどを行っておきましょう。

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
- 玄関や廊下には家具や荷物を置かない。
- 高齢者や子どものいる部屋や寝室には、倒れやすい家具は置かない。



非常持ち出し品を用意しましょう

●被災地に救援物資が届くまでには3日かかるといわれています。持ち出し品はこの3日間に必要なものを厳選しておきましょう。

一次持ち出し品(例)

一次持ち出し品は大地震が発生して避難するとき、まず最初に持ち出すべきものです。

- 非常食**：カンパンや缶詰など火を通さなくても食べられるもの。最初の1食は忘れずに。
- 貴重品**：現金(10円がある)、公衆電話利用に便利)、現金簿、印鑑、免許証、保険証、権利証など
- 懐中電燈**：できれば1人1つ、予備電池も
- 携帯ラジオ**：AM/FM両方聞けるものを、予備電池も
- 救急医薬品・常備薬**：ばんそうこう、傷薬、包帯、胃腸薬、持病のある人は常備薬など
- その他**：ティッシュ、軍手、ロープ、マッチ、洗面用具、生活用品など

二次持ち出し品(例)

- 飲料水**：1人1日3リットルが目安。ポリタンクなどに保存しておく。
- 食糧**：米や雑穀類で食べられる食品
- 燃料**：卓上コンロや図形燃料

その他

- 赤ちゃんがいる場合：粉ミルクやほ乳びん、哺乳衣、紙おむつなど
- お年寄りがいる場合：予備のメガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど

家族防災会議を開きましょう

いざという時に家族があわてず行動できるよ、家族防災会議を開いて、家族一人ひとりの役割分担や対処方法を決めておきましょう。

- 家族一人ひとりの役割を決める
- 災害弱者の支援方法を決めておく
- 非常持ち出し品の準備とチェック
- 地震発生時の連絡方法を決めておく
- 避難場所と避難ルートの確認をする

